

13. 京都府北部 MALUI 連携事業

長谷川 巴南

1. 事業概要

昨年度から、文化情報学研究室では、地域貢献型特別研究費（ACTR）「京都府北部の MALUI 連携による文化資源を活かした地域づくり」（研究代表者：東昇）の事業展開として、京都府北部の文化資源データ作成、MALUI 連携による情報連携プラットフォーム開発をおこなってきた。MALUI 連携とは、M（博物館）・A（文書館）・L（図書館）・U（大学）・I（企業）の頭文字をとったもので、これまで個々で存在していた各機関の連携を促進し、情報を集約、文化資源の共有化により、地域づくりに新たな循環を作り出そうと意図している。

2013 年以來、京都府舞鶴市で継続して史料調査をおこなってきた文化情報学研究室には、史料目録、史料画像などの文化資源データが蓄積されたことに加え、調査をもとにして高大連携授業、歴史ウォーク、成果報告会、展示、チラシ作成などを実施し地域づくりに携わってきた。また、舞鶴市、舞鶴市郷土資料館や舞鶴地方史研究会でも文化資源データが蓄積されてきた。これらの地域の文化資源データを統一して公開することで、多大な地域のデータに対してより容易にアクセスできる環境が創出できる。

2. WEB サイト「まるまる舞鶴」の公開と展開

2023 年 4 月、舞鶴市・舞鶴地方史研究会の協力を得て、WEB サイト「まるまる舞鶴」を公開した。このサイトには、単発的な記事の「コラム」、資料データの「コレクション」、人物別検索の「歴史の人物」、日替わりで出来事を掲載する「舞鶴市史カレンダー 今日は何の日」の 4 つの機能を実装した。具体的な内容は 2022 年度のフィールド集報 9 号に掲載している。

公開後は、継続的なサイト運営とともに、「まるまる舞鶴」の利用を実践する SNS 活動、「まるまる舞鶴」の周知と活用場として京都府立東舞鶴高校・福知山高校における高大連携授業、舞鶴市における史料整理、チラシの作成をおこなった。高大連携授業に関しては小原氏、福知山市での MALUI 連携に関しては渡部氏の稿に詳しい。

サイト運営では、4 月以降コラムを 19 本投稿し内容の充実を図ったほか、新たに「地図検索」の機能を実装した（図 1）。「地図検索」では、舞鶴市域（一部宮津市、福知山市）における近世の大庄屋組 8 区分、明治 22 年市制・町村制で決定した村 25 区分、現在の小学校区 18 区分の 3 種類の地図を作成し、区域名を選択することでその区域に限定したコラムを閲覧できる。この機能によって、より視覚的に検索機能を利用できるようになった。

SNS 活動では、X（旧 Twitter：@MALUI_kyoto）にて「まるまる舞鶴」内の「舞鶴市史カ



図1 地図検索

レンダー「今日は何の日」から今日の出来事を1つ選びその出来事について「#まるまる舞鶴今日は何の日」で発信している。また、「#太郎左衛門のつづやき」では余部上村の「作方年中行事」（井上奥本家文書）をもとに近世農民の日常的な農作業の様子をポストしている。「太郎左衛門のつづやき」は1ヶ月分ご

とに「まるまる舞鶴」内のコラムにまとめて投稿しており、容易に振り返ることができる。

7月には「まるまる舞鶴」の利用方法を示したチラシを作成し発行した。舞鶴市各所や連携先の東舞鶴高校、福知山高校などに配布した。11月1日には舞鶴市とMALUI連携に関する覚書を交わし、今後、舞鶴市・郷土資料館や市史におけるデータ活用について協力することとなった。11月22日、市長の定例記者会見でも紹介された。

3. 調査概要

今年度も前年度に引き続き舞鶴市郷土資料館での木船家文書・上西家文書・真下八雄文庫調査の際に連携をはかった。また、2023年7月には福知山市が収集してきた自治体史編纂資料の整理の状況を確認するために、京都府立福知山高校を訪問し所在調査を実施、11月には京都府立丹後郷土資料館を訪問し、伊根町漁業関連史料を調査した。

12月15、16日には、文化庁連携の一環として、書跡・典籍・古文書部門の調査官3名とともに、舞鶴市において調査・交流会を開催した。16日、舞鶴市西公民館における文化庁地域連携交流会では、藤田励夫主任調査官、岡村一幸・青木貴史調査官から文化財の指定登録業務の話などがあった。その後、舞鶴市、郷土資料館、舞鶴地方史研究会会員、京都府、丹後郷土資料館の学芸員・職員、府大の院生・学生と意見交換を行った。

調査参加者 東昇（教員）、長谷川巴南（博士前期課程2回生）、渡邊幸奈（4回生）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上3回生）、上武恒介（1回生）

4. 今後の展開

WEBサイト「まるまる舞鶴」は公開後MALUI連携の先進的事例として始動し、現在は地域の中で活用していく段階である。より多くの人々に「まるまる舞鶴」を利用していただけよう、舞鶴市域のみならず様々な地域を対象として資料やデータを集め内容を充実させていきたい。

さらに、文化情報学研究室による10年間にわたる舞鶴地域での調査、MALUI連携の推進により、今年度から新修舞鶴市史編纂が開始され、文化情報学研究室も協力することとなった。今後も舞鶴地域における連携事業を拡大・推進していく。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
